

薬害被害と制度を学ぶ

公開講座



主催：薬害根絶デー実行委員会

第2回 2014年6月30日(月) 18:30~20:30

「薬害エイズ被害について」

講師：後藤正善さん（元東京HIV訴訟原告）

場所：早稲田奉仕園 You-I ホール

（東京都新宿区西早稲田2-3-1 東京メトロ東西線早稲田駅徒歩5分他）



◆講師略歴：後藤正善さん

1974年6月生まれ。血友病患者で、中学1年の時に非加熱血液製剤を原因とするHIV感染が発覚。その後、東京HIV訴訟に加わり、1996年3月に歴史的和解を勝ち取りました。現在、会社員として働き、家族と共に幸せに暮らしています。以前は、匿名でしたが、最近は、実名で薬害被害者やHIV陽性者の立場で発言をしています。

◆薬害エイズ事件とは

HIV（エイズウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤により、1996年の厚生省の調査によって判明した日本の約5000人の血友病患者のうち、1771人がHIVに感染した事件です。

血友病は、止血に必要な凝固因子が不足しているため、出血した場合に止まりにくい病気です。出血した場合の治療として用いられるのが血液製剤です。

1970年代末になると国産のクリオ製剤よりも簡便な濃縮凝固因子製剤が登場し、治療に使用されるようになりましたが、これらの製剤にはウイルスを不活化するための加熱処理はされていませんでした。1980年代前半、アメリカから輸入されたエイズウイルスの混入した危険な非加熱製剤は、血友病専門医や製薬会社の社員の指導のもと、大量に使用されました。しかも加熱製剤の認可後も、危険な非加熱製剤はただちに回収されることなく使用され続け、主に1982年から85年にかけて、これを治療に使った血友病患者の4割もがHIVに感染しました。被害者はいわれなき偏見により差別を受け社会から排除され、さらに感染告知が遅れ、発病予防の治療を受けなかったことに加え、二次・三次感染の悲劇も生まれました。

薬害連続公開講座のご案内

私たち薬害根絶デー実行委員会では、これまでの薬害被害に学び、薬害のない社会にするための教訓を得るため、2回連続薬害被害を学ぶ公開講座を企画いたしました。6月14日に第1回目として、サリドマイド薬害の被害者の方をお招きしお話しいただきました。今回は、2回目として薬害エイズ被害について学びます。

学生、社会人どなたでも参加できます。まずは被害者のお話を直接聞いてみませんか？1回目に参加されていない方も、是非ご参加下さい。

薬害根絶デーとは

1999年8月24日、厚生省（当時）は、前庭に「薬害根絶 誓いの碑」を建立してサリドマイド・スモン・薬害エイズなどの悲惨な薬害を引き起こした反省と謝罪をしたはずでした。

しかし、実際には、今なお新たな薬害が生み出され、適切な救済がなされぬまま、被害と闘う毎日が続いております。

薬害根絶デーは、薬害の根絶と被害者救済を願い、毎年この日に「碑の前の誓い」を中心に、厚生労働省交渉・文部科学省交渉・リレートークなど、一連の薬害根絶行動を行う日です。

**今年の薬害根絶デーは、
8月25日（月）です**



薬害根絶デー実行委員会連絡先

新宿区新宿 1-11-12
岩下ビル 4階
オアシス法律事務所内
電話 03-5363-0138
担当：弁護士晴被雄太（はれまき・ゆうた）

Facebook や Twitter でも情報を発信しておりますので、ご参照ください。
(QRコード)



薬害根絶デー詳細
→「薬害根絶デー書庫」で検索